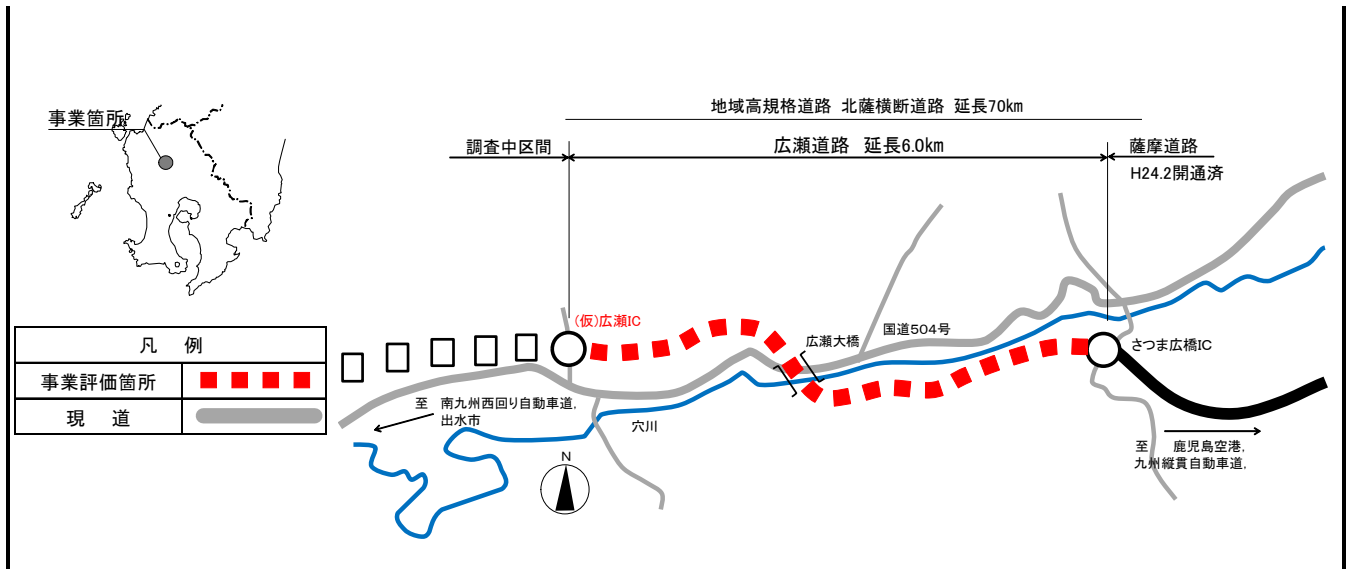


再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課
担当課長名：前佛 和秀

| | | | | | |
|--|------------------|------------------|--|--|--------------------|
| 事業名 地域高規格道路 北薩横断道路 一般国道504号 広瀬道路 | 事業区分 一般国道 | 事業主体 鹿児島県 | | | |
| 起終点 自：鹿児島県薩摩郡さつま町求名 至：鹿児島県薩摩郡さつま町広瀬 | 延長 6.0km | | | | |
| 事業概要 広瀬道路は、地域高規格道路である北薩横断道路の一部を担い、当該箇所を整備することにより、鹿児島空港等へのアクセスが向上するとともに、北薩地域の物流及び交流の活性化を図ることを目的とした延長6.0kmの道路である。 | | | | | |
| H23年度事業化 | 都市計画決定 無し | H24年度用地着手 | H25年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 160億円 | 事業進捗率 | 約43% | 供用済延長 | — km |
| 計画交通量 | 8,300台/日 | | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C (事業全体) | 1.2 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 62/151億円 (事業費：61/150億円 維持管理費：1.0/1.0億円) | 総便益 (残事業)/(事業全体) 178/178億円 (走行時間短縮便益：124/124億円 走行経費減少便益：39/39億円 交通事故減少便益：15/15億円) | 基準年 令和2年 |
| | (残事業) | 2.9 | | | |
| 感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.1~1.3(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=2.6~3.2(交通量±10%) 事業費：B/C=1.1~1.3(事業費±10%) 事業費：B/C=2.6~3.2(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.1~1.3(事業期間±20%) 事業期間：B/C=2.8~2.9(事業期間±20%) | | | | | |
| 事業の効果等 ・広域交通ネットワークの構築（東九州自動車道と一体となり、鹿児島空港までのアクセス向上） ・物流効率化の支援（農水産物の安定的な輸送支援） ・災害への備え（第一次緊急輸送道路としての位置付け） | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 さつま町をはじめとする4市2町で構成される北薩空港幹線道路整備促進期成会等により早期整備の要望が行われている。 | | | | | |
| 事業評価監視委員会の意見 鹿児島県事業評価監視委員会において、審議の結果「事業継続」が妥当であると認められた。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 北薩横断道路のきららIC～中屋敷ICが平成30年3月25日、さつま泊野IC～きららICが平成31年3月24日に開通した。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 ・用地取得率約99%、事業進捗率約43% ・今後も、改良工事を推進し、早期完成を図る。 | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き早期供用に向け工事等の事業進捗を図る。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 コンクリート二次製品の積極的な活用や再生骨材の採用等により、コスト縮減に努める。 | | | | | |
| 対応方針 事業継続 | | | | | |
| 対応方針決定の理由 事業の必要性、重要性は変化なく、費用対効果の投資効果も確保されているため。 | | | | | |
| 事業概要図 | | | | | |



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。